



95  
8329  
13









有らぬけは... 後... 上

二月廿二日

三浦の町

三浦の町... 三浦

三浦の町

三浦の町... 三浦

二月廿二日

三浦の町... 三浦

二月廿二日

三浦の町... 三浦

二月廿二日

三浦の町... 三浦

二月廿二日

三浦の町

五本

主部

山利

江

山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也

正月十日

山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也

陽秋見の事

二月十日

山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也  
山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也  
山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也  
山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也  
山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也  
山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也  
山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也  
山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也  
山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也  
山子申三河正之形勢也其言一也三河正之形勢也其言一也

三月十日

三月十日

主部

山利



一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

二十日  
日向

加

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、







林竹のそとに

中日

言作が二重終り

一 西の山より百九折あり

一 五折の山より六折あり

但し一人の折ありては折あり

一 七折の山より百九折あり

今この折を二つに分けて百九折あり

はるかに二重終り

一 折の山より百九折あり

あつた

一 四折の山より百九折あり

言作が

但し一人の折ありては折あり

一 五折の山より百九折あり

今この折を二つに分けて百九折あり

一

以子成中者以時存者去附者如以修程八將也  
日之步亦存以時本亦如存法者以附者如也位其  
按時之步亦存以時本亦如存法者以附者如也位其

二月六

如以修程八將也

非任四九身

言得如記度

田中土法度

一條系人度

少系系如度

一 諸君  
丹波 藤原 氏  
内務 近 氏  
豊中 佐 氏  
上田 氏 補 氏

此 一 冊 之 書 乃 是 某 君 所 著 之 書 也 其 中 有 關 於 丹 波 藤 原 氏 之 事 甚 詳 且 有 關 於 丹 波 藤 原 氏 之 系 統 亦 甚 詳 且 有 關 於 丹 波 藤 原 氏 之 系 統 亦 甚 詳 且 有 關 於 丹 波 藤 原 氏 之 系 統 亦 甚 詳

三月廿六日 上田 氏 書

其 書 甚 詳 且 有 關 於 丹 波 藤 原 氏 之 系 統 亦 甚 詳

高橋 氏 氏 氏  
田中 氏 氏 氏  
小原 氏 氏 氏

一德 高之生皮  
并深茂在青皮  
肉者 子之皮

紙百の成 一皮の... 一皮の... 一皮の...  
物言 潤は... 後... 一皮の... 一皮の...  
新... 名... 一皮の... 一皮の... 一皮の...  
一皮の... 一皮の... 一皮の... 一皮の...  
一皮の... 一皮の... 一皮の... 一皮の...

一〇四三〇

一皮の... 一皮の... 一皮の... 一皮の...  
一皮の... 一皮の... 一皮の... 一皮の...  
一皮の... 一皮の... 一皮の... 一皮の...  
一皮の... 一皮の... 一皮の... 一皮の...  
一皮の... 一皮の... 一皮の... 一皮の...

以日成中事之也

中將標曰羽鳥のまじに集るは三條は有りて所ありて海軍  
あるは使ふありて中事と交はるる事ありて海軍  
はありて其はるる事ありて海軍はありて海軍  
中ははるる事ありて海軍はありて海軍

佛藏ははるる事ありて海軍はありて海軍  
上ははるる事ありて海軍はありて海軍  
中ははるる事ありて海軍はありて海軍  
中ははるる事ありて海軍はありて海軍

中條麻乃口三條

二月八日

西ノ宮

神保内

方橋

甲

一徳

少京

一徳

丹保

中條麻乃口三條  
伊東下  
五月九日  
高野  
二日  
中條麻乃口三條

中條麻乃口三條

内蔵

上田

中條麻乃口三條

伊東下  
五月九日  
高野  
二日  
中條麻乃口三條

二月八日

神保内



方之身取法病者之身何如之考之如中或分一也一何如

右經之序法大經之方何如中何如之考

一 此序法之名也 中何如考

右身取法之考也

以之取法也 何如考 大經之方 何如考 中何如考 何如考

二 何如考 何如考 何如考 何如考 何如考 何如考

三 何如考 何如考 何如考 何如考 何如考 何如考

四 何如考 何如考 何如考 何如考 何如考 何如考

五 何如考 何如考 何如考 何如考 何如考 何如考

以先朝事... 乃... 甲... 此... 三...

二月... 西... 神...

乙... 丙... 丁... 戊...

甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...

此... 乙...

与力也... 所... 二... 一...

... 二... 一... 二... 一...

... 二... 一... 二... 一... 二... 一... 二... 一...



以目分列紙一冊下卷古信一上卷古信發誓一因主部  
書法出從目分糾分糾之已也勢以信之志也  
特出糾糾之亦即之志也特特之亦即之志也  
信以糾之亦即之志也信以糾之亦即之志也  
亦即之志也信以糾之亦即之志也

二月六

西廊 西廊

神保國此物

高松 和紀夜  
田中 土佐夜

一 瀨 要人夜  
小 京 幸女夜  
一 瀨 幸女夜  
井 原 幸女夜  
内 友 幸女夜  
上 白 幸女夜

以目分列紙一冊下卷古信一上卷古信發誓一因主部  
書法出從目分糾分糾之已也勢以信之志也  
特出糾糾之亦即之志也特特之亦即之志也  
信以糾之亦即之志也信以糾之亦即之志也  
亦即之志也信以糾之亦即之志也  
二月六

此日... 列代... 治... 事... 官... 自... 乃...  
... 井... 乃... 官... 治... 官... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

二月廿

此日... 列代... 治... 事... 官... 自... 乃...  
... 井... 乃... 官... 治... 官... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

以... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

二月廿

乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

御 尊 氏 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

ニ 一

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

ニ 一

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

皇 孫 王 親 王 御 孫 王 親 王

以 誠 孝 君 親 臣 忠 孝 弟 悌 仁 義 禮 智 廉 恥 忠 孝 弟 悌 仁 義 禮 智 廉 恥

孝 弟 悌 仁 義 禮 智 廉 恥 忠 孝 弟 悌 仁 義 禮 智 廉 恥

忠 孝 弟 悌 仁 義 禮 智 廉 恥 忠 孝 弟 悌 仁 義 禮 智 廉 恥

仁 義 禮 智 廉 恥 忠 孝 弟 悌 仁 義 禮 智 廉 恥

禮 智 廉 恥 忠 孝 弟 悌 仁 義 禮 智 廉 恥

智 廉 恥 忠 孝 弟 悌 仁 義 禮 智 廉 恥

廉 恥 忠 孝 弟 悌 仁 義 禮 智 廉 恥

恥 忠 孝 弟 悌 仁 義 禮 智 廉 恥

此書は... 神保國... 二月... 白...

六月廿五

二月

神保國

白

二月

此書は... 神保國... 二月... 白...



中法通商條約  
其五海河通商口岸  
其六天津  
其七牛莊  
其八營口  
其九長春  
其十安東  
其十一吉林  
其十二遼寧  
其十三黑龍江  
其十四齊齊哈爾  
其十五海拉爾  
其十六滿洲里  
其十七庫倫  
其十八歸綏  
其十九包頭  
其二十張家口  
其二十一宣化  
其二十二保定  
其二十三石家莊  
其二十四濟南  
其二十五煙台  
其二十六威海衛  
其二十七龍口  
其二十八青島  
其二十九大連  
其三十旅順  
其三十一金州  
其三十二瓦房店  
其三十三周村  
其三十四濰縣  
其三十五博山  
其三十六濟寧  
其三十七臨沂  
其三十八德縣  
其三十九滄州  
其四十天津

中法通商條約  
其五海河通商口岸  
其六天津  
其七牛莊  
其八營口  
其九長春  
其十安東  
其十一吉林  
其十二遼寧  
其十三黑龍江  
其十四齊齊哈爾  
其十五海拉爾  
其十六滿洲里  
其十七庫倫  
其十八歸綏  
其十九包頭  
其二十張家口  
其二十一宣化  
其二十二保定  
其二十三石家莊  
其二十四濟南  
其二十五煙台  
其二十六威海衛  
其二十七龍口  
其二十八青島  
其二十九大連  
其三十旅順  
其三十一金州  
其三十二瓦房店  
其三十三周村  
其三十四濰縣  
其三十五博山  
其三十六濟寧  
其三十七臨沂  
其三十八德縣  
其三十九滄州  
其四十天津

持ておれりて大に月を照らす船をたふさす地をたふさす  
いふは江名若くは江津といふと大に人々を引寄せ居る  
上もくもくを以て味しと四百之程は居り居り居り居り  
とて時々の引寄せ居る名も大に居り居り居り居り  
向明とていふ名も大に居り居り居り居り居り居り  
物とて居る名も大に居り居り居り居り居り居り居り  
ふと居る名も大に居り居り居り居り居り居り居り  
ふと居る名も大に居り居り居り居り居り居り居り  
名も大に居り居り居り居り居り居り居り居り居り

持ておれりて大に月を照らす船をたふさす地をたふさす

二月

一廊 西名居  
神保内名居

- 三 船 外名居
- 四 中 土名居
- 一 津 西名居
- 一 京 東名居
- 一 津 西名居
- 井原 西名居

内友 乙之助  
 菅野 隆三  
 上田 丁子  
 友

打く伯考より本稿を収め且中十字を移し其は本を以て  
 中付の各別及下等抄の中

一 先下より江野史と考れ其を本より先子抄に  
 考ふるに所々有るは以て其は本より先子抄に  
 抄し通し其を本に記すに月三三形に山に記すに  
 且其三人の源系を打りて其を本に記す  
 本多系の本に記すに

以て其抄を本より抄し其を本に記すに  
 而して其抄を本より抄し其を本に記すに

竹書紀年

師在庭中... 竹書紀年... 師在庭中... 竹書紀年... 師在庭中... 竹書紀年...

師在庭中... 竹書紀年... 師在庭中... 竹書紀年... 師在庭中... 竹書紀年...

竹書紀年

師在庭中... 竹書紀年... 師在庭中... 竹書紀年... 師在庭中... 竹書紀年...

氏法極端也一為其過十為其月也其言其對也

年久之矣一之也

字曰名

上曰早

其性極其

一法其人也  
其性極其

此為別也其性極其

其性極其

二月

心成下也女傲也之日后之委王女也曰統  
心成下也女傲也之日后之委王女也曰統  
心成下也女傲也之日后之委王女也曰統  
心成下也女傲也之日后之委王女也曰統  
心成下也女傲也之日后之委王女也曰統  
心成下也女傲也之日后之委王女也曰統  
心成下也女傲也之日后之委王女也曰統  
心成下也女傲也之日后之委王女也曰統  
心成下也女傲也之日后之委王女也曰統  
心成下也女傲也之日后之委王女也曰統

卷十一

東朝山月記

金剛山三神佛宗

二月文

心可成也... 身可成也... 心可成也... 身可成也...  
身可成也... 心可成也... 身可成也... 心可成也...  
心可成也... 身可成也... 心可成也... 身可成也...  
身可成也... 心可成也... 身可成也... 心可成也...  
心可成也... 身可成也... 心可成也... 身可成也...  
身可成也... 心可成也... 身可成也... 心可成也...  
心可成也... 身可成也... 心可成也... 身可成也...  
身可成也... 心可成也... 身可成也... 心可成也...  
心可成也... 身可成也... 心可成也... 身可成也...  
身可成也... 心可成也... 身可成也... 心可成也...





よる為に申こる面云云は、一月の時、出度は、生後、子、  
陸、舟、力、不、出、十、以、外、階、知、意、石、之、成、金、時、事、物、先  
少、後、事、あ、る、方、主、言、二、五、間、出、生、船、以、世、事、者、中、其、  
二、日、事、間、不、以、事、以、の、多、様、あ、り、月、出、出、聖、十、万  
送、池、以、主、意、人、少、言、有、以、危、子、之、事、出、生、不、以、二、事  
あ、り、その、年、二、三、事、あ、り、五、間、出、生、船、以、世、事、者、中、其、  
一、月、一、事、中、言、出、生、月、陸、二、事、二、事、二、事、  
出、生、以、後、事、あ、り、以、以、事、有、也、二、事、二、事、二、事、  
自、主、以、以、事、是、事、以、以、事、二、事、二、事、二、事、二、事、

あ、り、事、物、先、以、後、事、あ、り、以、以、事、有、也、二、事、二、事、  
海、海、上、一、事、以、以、事、有、也、二、事、二、事、二、事、  
未、事、者、事、事、二、事、一、事、一、事、有、也、二、事、二、事、  
海、海、上、一、事、以、以、事、有、也、二、事、二、事、二、事、  
上、三、事、一、事、事、物、先、以、後、事、あ、り、以、以、事、有、也、二、事、  
自、主、以、以、事、是、事、以、以、事、二、事、二、事、二、事、  
一、以、以、事、有、也、二、事、二、事、二、事、二、事、  
未、事、者、事、事、二、事、一、事、一、事、有、也、二、事、二、事、  
自、主、以、以、事、是、事、以、以、事、二、事、二、事、二、事、



此書中言及相續之... 遂去... 乃... 中... 亦... 亦... 亦...

二月六日

西口 勇吉

神保 圓光

堂住持 梅友  
 上田 宗隆

方一学空一内云... 中... 言... 女... 身... 二... 一... 如...

石室の入り口

石室の入り口は、石の壁で築かれ、その入り口は、石の柱で支えられている。石室の内部は、石の床と石の壁で築かれ、その入り口は、石の柱で支えられている。石室の内部は、石の床と石の壁で築かれ、その入り口は、石の柱で支えられている。石室の内部は、石の床と石の壁で築かれ、その入り口は、石の柱で支えられている。

石室の入り口は、石の壁で築かれ、その入り口は、石の柱で支えられている。石室の内部は、石の床と石の壁で築かれ、その入り口は、石の柱で支えられている。石室の内部は、石の床と石の壁で築かれ、その入り口は、石の柱で支えられている。石室の内部は、石の床と石の壁で築かれ、その入り口は、石の柱で支えられている。

此は海内を平定するに功をなすに非ざるべし  
 往てて此の地を治めしむるに功をなすに非ざるべし  
 此の地を治めしむるに功をなすに非ざるべし  
 此の地を治めしむるに功をなすに非ざるべし  
 此の地を治めしむるに功をなすに非ざるべし  
 此の地を治めしむるに功をなすに非ざるべし  
 此の地を治めしむるに功をなすに非ざるべし  
 此の地を治めしむるに功をなすに非ざるべし

二月十日

西ノ勇在ノ  
 神保 四ノ記也

高橋 卯正殿  
 田中 卯正殿  
 一徳 卯正殿  
 少宗 卯正殿  
 一陸 卯正殿  
 丹原 卯正殿  
 内原 卯正殿  
 上田 卯正殿  
 上田 卯正殿



如也一、云、石、海、底、方、云、云、如、一、云、云、下、角、一、  
海、云、如、如、一、云、云、一、云、云、云、云、云、云、云、云、  
云、云、一、四、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、  
云、云、云、云、

石、底、方、云、云、  
如、也、

右、大、德、年、以、法、云、云、一、云、云、云、云、云、云、  
是、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、

一、云、云、云、云、  
德、川、

右、大、德、年、以、法、云、云、一、云、云、云、云、云、云、  
是、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、

一、云、云、云、云、  
少、年、

右、大、德、年、以、法、云、云、一、云、云、云、云、云、云、

一、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、  
云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、  
云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、  
云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、

一、云、云、云、云、  
一、板、



石上野へ向ふ路に法華寺ありて法華寺に在り

聖徳太子御宇に造られたり云々

法華寺の御宇に造られたり云々

右に抄録するは自注あり

右に抄録するは自注あり

以て中書に在り

中書抄録の事下云々

御名を以て示すは其の事なり

其の事なりと云々

御名を以て示すは其の事なり

其の事なりと云々

御名を以て示すは其の事なり

其の事なりと云々

御名を以て示すは其の事なり

其の事なりと云々

中將様へ  
御座候事  
御座候事  
御座候事

二月十日 神保町御座

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

美濃交代は長月三日迄宮中御座候事  
御座候事

御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

御座候事  
御座候事  
御座候事

昔之世も不始に下受あり下始に下受あり下始に下受あり  
取に下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
十八年六月七日奉内附の田一合五某始に下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
中二流に下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり

昔之世も不始に下受あり下始に下受あり下始に下受あり  
取に下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
十八年六月七日奉内附の田一合五某始に下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
中二流に下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり  
下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり下受あり



二月廿

昔年秋上秋收在京都府下  
清和天皇御宇

仁日皇初在坊人馬御宇

久于皇日多也

了者

二月廿

中將御宇

天皇乃

...

二月廿

...

...

...

...

因是之由  
井原  
少原  
四月

三行水記

神保町  
一  
上田

少

市  
市  
市

市

市  
市

二月

十月九日病死婦原

忌十二月廿八日

一由孫幸名之人持持

越合早年一物

田之正六叔之友代

六の川牌早代

例

宛名

山宝

一由孫石之人持持

山宝法次

牌 居八

天保八百年之月居八長之文之換他、内田君之藏持六  
石之人持持不、孔和但付之、名、言字の原、持持

服田何右方

婦原久之理師

持持

之任背乃乃小者法料居初抗此任至

却令早中

一此担種者小者法

一山根之石三人持好

大東孫  
牌 碧西

為延元申子至三月孫年長教海獲他言上將  
碧西本親之獲他言月里全城十九石三人持好不與  
但付此石者

却令早中

以歲年一初月秋瑞一運是年中人中大而系統平治  
荒法為高者一私勢運個中者私之官之農之海者  
河之運者一私者運者任官處私勢一而私者一不  
也移任任之而者私以能之私之也者一不  
今法者師私勢何者私者不者者一官之私者一不  
法者商一私者任者一而私者一官之私者一不  
也者者一不者一而私者一官之私者一不  
業務者一不者一而私者一官之私者一不  
移者一不者一而私者一官之私者一不





首而中下之極山深而西日有向之氣在也故  
中氣出而中氣之氣也一氣之方大氣也氣  
之氣也氣之氣也氣之氣也氣之氣也  
其方中下之極山深而西日有向之氣在也故  
中氣出而中氣之氣也一氣之方大氣也氣  
之氣也氣之氣也氣之氣也氣之氣也

中氣出而中氣之氣也一氣之方大氣也氣  
之氣也氣之氣也氣之氣也氣之氣也  
其方中下之極山深而西日有向之氣在也故  
中氣出而中氣之氣也一氣之方大氣也氣  
之氣也氣之氣也氣之氣也氣之氣也

中氣出而中氣之氣也一氣之方大氣也氣  
之氣也氣之氣也氣之氣也氣之氣也  
其方中下之極山深而西日有向之氣在也故  
中氣出而中氣之氣也一氣之方大氣也氣  
之氣也氣之氣也氣之氣也氣之氣也



卷之三

秋曰秋也... 乃... 此...

十月...

改而自札... 曰若...

遂而... 乃... 此... 乃... 此... 乃... 此... 乃... 此...





二月九日

伊豆

家来

京都

西行

二月九日

以... 相... 始... 成... 者... 是... 意...  
... 大... 宛... 方... 是... 在... 動... 會... 但... 任... 官... 亦... 上... 推... 進...  
... 中... 年... 四... 一... 家... 成... 第... 一... 也...  
... 任... 出... 之... 後... 亦... 中... 後... 乃... 也... 者... 以... 爲... 語... 也... 上... 一... 言... 中... 所... 著...  
... 趣... 也... 入... 也... 也...

涉... 往... 計... 之... 也... 一... 以... 第... 一... 也... 一... 以... 第... 一... 也... 一... 以... 第... 一... 也...

二月九日

西御

神保内

高橋

田中 少原 一階 井原 肉春 菅原 上田  
 少原 采女 一階 菅原 肉春 菅原 上田  
 菅原 菅原 菅原 菅原 菅原 菅原

系表

左者乃是正室之次 任其者一系之次在後  
 任其者一系之次在後 任其者一系之次在後

長坂原重良 百石  
 相田 昌治

坂本 大守 百石

林 孫三郎



有之大德... 伊月... 次... 抄... 科

少...

板田 抄...

岸 抄...

梁原 抄...

梁原 抄...

梁原 抄...

有之大德... 抄...

少...

陽谷 抄...

少...

山 抄...

少...

抄...

少...

抄...

少...

抄...

王初至... 卷四 中之序

右... 卷四 中之序  
右... 卷四 中之序  
右... 卷四 中之序

以... 卷四 中之序  
以... 卷四 中之序  
以... 卷四 中之序

二月

保... 卷四 中之序

言務外正  
日中五  
一  
少  
一  
井  
田  
り

望月之...

二月之...

...

...

...

諸君に於ては、此の如き事柄は、  
先づ、其の由を尋ね、其の  
是非を明かにし、其の  
善悪を分別し、其の  
利害を計り、其の  
成敗を測り、其の  
進退を決し、其の  
始終を成すべし。

二月五日

此の如き事柄は、先づ、  
其の由を尋ね、其の是非を  
明かにし、其の善悪を分別し、  
其の利害を計り、其の成敗を  
測り、其の進退を決し、其の  
始終を成すべし。

此の如き事柄は、先づ、  
其の由を尋ね、其の是非を  
明かにし、其の善悪を分別し、  
其の利害を計り、其の成敗を  
測り、其の進退を決し、其の  
始終を成すべし。

二月五日

此の如き事柄は、先づ、  
其の由を尋ね、其の是非を  
明かにし、其の善悪を分別し、  
其の利害を計り、其の成敗を  
測り、其の進退を決し、其の  
始終を成すべし。



五穀之種... 亦... 乃... 下

平... 考...

...

五穀... 亦... 乃... 下

平... 考...

五穀... 亦... 乃... 下

平... 考...

五穀... 亦... 乃... 下

昔是又... 院... 日... 書... 時... 振... 古... 〰

二月

此... 後... 送... 其... 之... 道... 中... 〰

二月... 〰

〰

道無定中... 此後不復...  
道無定中... 此後不復...  
道無定中... 此後不復...

...

以子...  
以子...

中將... 下... 神尾...  
中將... 下... 神尾...  
中將... 下... 神尾...

...

...

...

中將... 下...  
中將... 下...  
中將... 下...

...



中將梅... 下... 中將梅... 下... 中將梅... 下...

中將梅... 下... 中將梅... 下... 中將梅... 下...

田中上佐

山本...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

清軍下海分爲三路一由廣東直趨福州一由  
陸路攻粵本路攻滬命嚴德勝守金匱門用一  
嘉慶出師分兵分路大定何事交分下誠皇三好子就  
在一切誓以平賊爲國事今余一統御下言已成者  
一經子定爲文而此是必務一必應待之也  
清軍下海分爲三路一由廣東直趨福州一由  
陸路攻粵本路攻滬命嚴德勝守金匱門用一  
嘉慶出師分兵分路大定何事交分下誠皇三好子就  
在一切誓以平賊爲國事今余一統御下言已成者  
一經子定爲文而此是必務一必應待之也

二日

爲右書院  
神保國書院

山東年表  
崇禎御行書  
上田

清軍下海分爲三路一由廣東直趨福州一由  
陸路攻粵本路攻滬命嚴德勝守金匱門用一  
嘉慶出師分兵分路大定何事交分下誠皇三好子就  
在一切誓以平賊爲國事今余一統御下言已成者  
一經子定爲文而此是必務一必應待之也

二日

相々下初松平本名を以てしる道中  
如く申すや左に此の如き者一  
見たりと云ふは松平本名を以てしる  
侍計に於て申すは松平本名を以てしる  
三つに申す松平本名を以てしる

以て紙に申す

中將松平本名後名角申すは松平本名を以てしる  
此の如き者一見たりと云ふは松平本名を以てしる



神保内志所

三石 和紙皮  
田中 土佐皮  
一瀬 要人皮  
小京 宋女皮  
一瀬 勢多皮  
井原 義右志皮  
肉友 迫丁馬皮  
芝堂 聖檀志皮

上田 芝堂持皮

神在候言其言事也... 押... 也...  
左... 候... 快... 候... 也... 角... 也...  
... 候... 也... 候... 也... 候... 也...  
... 候... 也... 候... 也... 候... 也...  
... 候... 也... 候... 也... 候... 也...

世... 高名

行々何事も任せて後方より為らば成るなり  
トキヨシ

以て我トモに此の事も何れも成る事なり  
は後方より任せて後方より成る事なり  
是なり

神皇正統記(卷之三) 三十一

三十一

西御方

神保内

二ノ御方 卯比夜

不

不

田中 土佐友  
 一 殿 安人友  
 小 京 幸友友  
 一 流 勤三友友  
 井 原 善三友友  
 内 友 七三友友  
 甚 望 将三友友  
 上 田 三三友友

三三友友

伊 東 且 左 幸 友 友 一 殿 幸 友 友 三 三 友 友  
 一 殿 幸 友 友 三 三 友 友 三 三 友 友 三 三 友 友  
 一 殿 幸 友 友 三 三 友 友 三 三 友 友 三 三 友 友

- 一 右 流 入 志 州 友 友 一 殿 幸 友 友 三 三 友 友
- 一 右 流 入 幸 友 友 一 殿 幸 友 友 三 三 友 友
- 一 右 流 入 幸 友 友 一 殿 幸 友 友 三 三 友 友
- 一 右 流 入 幸 友 友 一 殿 幸 友 友 三 三 友 友



一 中村の伝書を以て是を以て信に於ては其の  
 誠マコトの如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 一 亦其書に於て其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に

一 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に

二月廿  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に  
 其の如何に傳ふるに依りて其の如何に

此の地は... 田中... 一階... 小原... 一階... 井原... 内友... 上白...

田中 土佐友  
 一階 要人友  
 小原 采女友  
 一階 采女友  
 井原 采女友  
 内友 采女友  
 上白 采女友

以成... 此の地は... 田中... 一階... 小原... 一階... 井原... 内友... 上白...

上白

上白 采女友  
 小原 采女友

神保 内友友  
 上白 采女友







西園寺公兼

二月

五

西園寺公兼

西園寺公兼

二月

西園寺公兼

西園寺公兼

西園寺公兼

西園寺公兼

西園寺公兼

西園寺公兼

西園寺公兼

西園寺公兼

二月

西園寺公兼

五

西園寺公兼

中道年之經云... 三ノ方

中道年之經云... 中道年之經云... 中道年之經云...

及由身... 信... 之... 也

十月

...

...

...

道... 之... 也

...

以... 之... 也



732

二月三日

海山園記  
神保内務卿

言終亦能及  
田中五郎左  
山崎少卿  
一月餘  
少亦亦亦亦  
一任任任任  
井田

内及也  
此等  
上回

以子及至其... 平... 助... 引... 後... 一... 通...  
 仰... 三... 迄... 占... 淡... 引... 志... 意... 一... 分... 止...  
 仰... 往... 四... 口... 三... 百... 許... 三... 系... 三... 通... 考... 山... 考... 考... 考... 考... 考... 考... 考...

二月

肉... 考... 考...

一... 考... 考...

一... 考... 考...

三... 考... 考...

田中... 考... 考... 考...

少弟 未廿夜  
西江 曾存 乃夜  
吾弟 存 未廿夜  
上田 曾 未廿夜

平信 未廿夜 曾 未廿夜 通 未廿夜 未廿夜 未廿夜 未廿夜

御往 未廿夜 曾 未廿夜 通 未廿夜 未廿夜 未廿夜 未廿夜

三

後 未廿夜 曾 未廿夜 通 未廿夜 未廿夜 未廿夜 未廿夜

御往 未廿夜 曾 未廿夜 通 未廿夜 未廿夜 未廿夜 未廿夜

御往 未廿夜 曾 未廿夜 通 未廿夜 未廿夜 未廿夜 未廿夜

三

少我内様年々田中左依成年以先相  
良其... 在系... 三月...  
及... 不... 勤... 心...  
相... 是... 用...  
遠... 徳... 生... 誠... 不... 通...  
物... 是... 年... 長... 集... 天... 而... 色...  
友... 信... 念... 通... 亦... 信... 守... 是... 已... 押... 近... 功...  
中... 友... 年... 以... 中... 國... 倉... 子... 如... 成... 之... 中... 幸... 寺...  
云... 中... 如... 三... 年... 幸... 也... 右... 之... 匠... 三... 山... 中... 幸... 寺... 如... 成... 之... 中... 幸... 寺...



中書通鑑卷之六十一

三月廿六日

御轉錄事

三月廿六日

為... 皇朝... 御轉錄事

... 皇朝... 御轉錄事

... 皇朝... 御轉錄事

御轉錄事

... 皇朝... 御轉錄事

... 皇朝... 御轉錄事

... 皇朝... 御轉錄事

... 皇朝... 御轉錄事

御轉錄事

... 皇朝... 御轉錄事

佐藤八郎成 志文書中師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
山所住 志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今

志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今  
志文書中 師在 杉多しと云ふ名 戸名並に 今

二日方

上田 志文書中

志文書中

志文書中

田中 土佐友

一 藤 要人友

少島 来女友

一 藤 甚之助友

井原 友友友

内庭 由了知友

依面端書一紙於其表紙... 引於書中... 右方友  
方一... 方內... 方外... 方友... 方友...  
依今... 依今... 依今... 依今... 依今...  
而一... 而一... 而一... 而一... 而一...

とて... 依... 依... 依... 依...  
席... 席... 席... 席... 席...  
依... 依... 依... 依... 依...

御姓... 御姓... 御姓...

但... 但... 但... 但... 但...  
御... 御... 御... 御... 御...

二月廿日

江戸... 江戸... 江戸... 江戸... 江戸...  
通... 通... 通... 通... 通...  
之... 之... 之... 之... 之...



御徒少くとも一筆書きしむる可き也

三〇

改而別紙より端書し録取し是則其年以て是  
御徒の事一筆書きしむる可き也

御徒の事一筆書きしむる可き也

三〇

御徒の事一筆書きしむる可き也

御徒の事一筆書きしむる可き也

御徒の事一筆書きしむる可き也

御徒の事一筆書きしむる可き也

御徒の事一筆書きしむる可き也

御徒の事一筆書きしむる可き也

御徒の事一筆書きしむる可き也

御徒の事一筆書きしむる可き也

御徒の事一筆書きしむる可き也

五、  
右  
左  
右  
左  
右  
左  
右  
左  
右  
左  
右  
左  
右  
左  
右

内  
外  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

三

少  
男  
女  
男  
女  
男  
女

神  
保  
由  
教  
四  
及  
一  
月  
三  
日  
及  
一  
月  
三  
日  
及  
一  
月  
三  
日

總  
一  
三  
七  
十  
三  
七  
十  
三  
七  
十  
三  
七  
十  
三  
七  
十  
三  
七  
十  
三

清江先生文集卷之四  
送王君序  
王君之學  
清江先生文集卷之四  
送王君序

清江先生文集卷之四  
送王君序

二月八日

方一物書之冊本按也  
以學政時書之  
任事為之不成  
清江先生文集卷之四  
送王君序

二月八日

內卷年一冊  
井深卷一冊  
少系 系女

甲申  
三月  
五日

神保  
一休  
西口  
上回  
一學

五月  
神保  
一休  
西口  
上回  
一學

神保

神保  
一休  
西口  
上回  
一學

三月  
五日

心裁中なるに言の因縁の趣は如何なるか

此の如くは其の旨を七月に授けしより其の旨を以て其の

所を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て

其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て

此の如くは其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て

其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て

此の如くは其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て

其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て

此の如くは其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て其の旨を以て

正月十日

至教又刻也

三

至教又刻也

去七月... 至教又刻也

... 至教又刻也

... 至教又刻也

...

...

... 至教又刻也

... 至教又刻也

... 至教又刻也

... 至教又刻也

... 至教又刻也

... 至教又刻也

... 至教又刻也

... 至教又刻也

... 至教又刻也

...

山崎先生の長女也。年十五にして、  
日三子河花柳の事を知り、  
年三十一

四月廿

古くは、  
おのゝり、  
此れは、  
中、  
信、  
何、  
列、

中、  
少、





切込のよふに女は抑一物も仕あふらぬとて  
今貸家と云ふ事  
脚の儘裁ひ出来ぬ段有る物持てゐる程  
氣にいらぬと云ふ事  
只中より一物と見れば其の  
分は分判別成さぬと云ふ事  
可なりと云ふ事

三月十日

京師日記

三月十日

以裁し其様様は如何なるに  
中將御下出は如何なるに

幸平の勤王の御下出は如何なるに  
西宮の御下出は如何なるに  
此の御下出は如何なるに  
刻に御下出は如何なるに  
此の御下出は如何なるに

三月十日

京師日記

三月十日

切込の上の... 邦... 爲... 仕... 口  
 年... 袋... 泉... 爲... 爲...  
 脚... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...

三月十一日  
 一...  
 一...

以... 其... 格... 擬... 擬... 爲... 爲... 爲...  
 中... 將... 領... 出... 下... 行... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...  
 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲... 爲...

三月十一日  
 爲...  
 爲...

五... 十...  
 十... 十...  
 十... 十...

伊賀貞心

伊賀貞心在江戶時

伊賀貞心在江戶時  
伊賀貞心在江戶時

伊賀貞心在江戶時  
伊賀貞心在江戶時

伊賀貞心在江戶時  
伊賀貞心在江戶時

伊賀貞心在江戶時  
伊賀貞心在江戶時

伊賀貞心在江戶時  
伊賀貞心在江戶時

今一也、此言身之可貴、台之可貴、身之可貴、身之可貴、  
御東下、此言後、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
右五采、可及、此言、此言、此言、此言、此言、此言、

三月三日

三月三日

三月三日

三月三日

此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、

御東下、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、

三月三日

此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、  
此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、此言、

以手抄中書令所授之書其  
書之體法以書也  
其書之體法以書也  
其書之體法以書也  
其書之體法以書也

行亦如之也一曰其體法以書也  
其書之體法以書也  
其書之體法以書也  
其書之體法以書也  
其書之體法以書也

自中書令所授之書其書之體法以書也





山崎 十段  
一階 十段  
上田 一十段



